

創学舎ニュース

いじめの周辺

(傷つきやすい心)②

No.253



●小学校を卒業して、道路を一つはさんで隣接する中学校へ進む。このとき、自分は決意した。泣かされたり、いつもおどおどしている自分を変えようと。そのために、体を鍛え、運動に打ち込み、勉強も頑張ろう。いじめられそうになっても、抵抗しよう。いじめられている人がいたら体を張って止めよう。

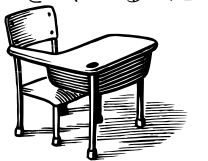
●その決意は、決して崇高ではなく、自分の立場を強くすることで、安心を得たいという卑しいものであった。結果、どれもある程度に達成でき自分の望みはかなった形にはなかった。学校でのびのび過ごせるようになったことで、中学生活は楽しいものとなった。ただ、自分には、心に重くのしかかるものが他に三つあった。

●一つは、脳の病気で(これは中三のときに完治するのだが)、それはかなかな死の予感をもたらした。この二十年余、まず風邪もひかないし、テントをかついでの山行もこなしてきたし、今でも二十キロメートルは走れる体力はある。しかし、脳だけはどこか弱い所をずっと抱えている。なわとびを三分くらいすると、後頭部がズキズキしてくる。これはなれきってしまったが、私の心を少しだけおびえさせてきたものだ。



●二つ目は、家の貧しさであった。生活保護を受けていて、今となっては、社会にその制

度に心からの感謝をしているのだけれども、当時はそれに触れられるのがイヤだった。学校の教師の中にも、「あんた達はひとのお金で生きているんだからね。」という人がいた。事実だから、私は押し黙るしかなかったが、同じ事を言われた弟はその先生の教室へどなりこんでいた(弟はエライ奴だ)。同じ集落の人の同様のセリフは、ときどき耳に入っていた。このときも、私は押し黙るしかなかった。



高校進学するとき、「ひと様の金で生きているくせに。就職しろ。」と説教をたれる近所のおばさんは、あれは殴るべきだったのかもしれない。

●三つ目は、父のことであった。二歳で蒸発、死別するのだが、これも話のネタにする同級生がいた。事実なので、私は押し黙るしかなかったが、これも殴るべきであったのだろう。

●脳の病気はともかく、家の貧しさと父のことは触れてほしくないのに、大人も子供も何人かは口にする。本人は、ひよつとしたら善意で言っているかもしれないと思えなくもないケースもあったが、イヤなものにはイヤであった。(小林)

逆転はあるぞ！

●Y君は、高3の六月ごろYゼミから移ってきた。英語の文法も単語も熟語もとんでもない状態。長文なんか読む以前。模試は最後まで低空飛行、E判定のオンパレード。そして、結局、中央大学法学部に合格。

●Uさんは十校ぐらい受験。偏差値でいえば十番目の所だけ合格で、第二志望から第九志望まで全滅。そして、最終結果、早大合格。

●毎年こんな人たちがたくさんいる。一体どうしてこんなことが起こるのだろうか？人は、「運が良かっただけさ。」というかもしれない。そう、確かに運は良かったのだ。しかし、宝くじではないのだからとにかく合格点はとったのだ。この「合格点をとった」という事実を重視してほしい。勿論、やったことのある問題が出たこともあるが、それとてせいぜい一〜二割。残りの問題を解かなければ、合格は不可能だ。

●では、どうして合格点を取るところまで行けたのか？その秘密を解き明かそう。

●まず気迫である。「何としても合格しよう」という気迫である。この気迫があれば、勉強の能率は二倍にも三倍にもなる。問題を解くときにも、正解を出すためにありとあらゆるヒントを探し、カンもさえるようになる。今まで使っていなかった能力が発揮されるのだ。では、彼らに不安はなかったのか？いや、あったのだ。

●不安とうまくつきあおう。一体、不安が何故生じるかというと、きみが志望校合格を望んでいるからである。望んだ瞬間から、不安は発生する。受験に限らず全ての願望に関して共通の真理である。だから、不安を消そうと思っはいけない。不安が大きくならないように配慮をするのだ。そのためにやることはひとつ。勉強を続けるのだ。大体、きみは今まで全力を尽くしたことはあるのか？きみの能力はまだ眠っている部分がたくさんあるのではないか？答えは明らかかなはず。全力を尽くしたことはないし、眠っている能力がたくさんあるのだ。だからやれ。ひたすらやれ。

●次に、その気迫がさせることだが、できるだけ時間をとることだ。今から入試までの日

程を確認して、ムダな時間を作らないこと。勿論、睡眠時間と食事はきちんと確保すること。



●みんな、やることを絞っていた。新しい問題集は、一回では身につかない。それより今までやってきたことを死ぬほどくり返すこと。あいまいな百の知識より、確実な五十の知識がはるかに有効。

●みんな、過去問の研究をしていた。その大学で全く同じものが出ることはないが、他の大学では出る。何より、その出し方に慣れることで得点力はグンと上がる。これが一番大切なこと。

●分かったかい？残された時間はそう多くない。気迫をもって先輩達がやったことを、きみ達もくり返すことだ。「浪人したらどうしよう」と思っている人も多いと思うが、そうならそのときに考えればいい。別に死ぬわけではないのだ。大事なことは、充実した時間を過ごす自分を作ること。そうすれば、不合格になっても浪人になっても、また動いていく勇気がわいてくる。心配しているだけでは、何も得られない。いや、勉強も手につかず一番望んでいない状態に自分を持っていつてしまうぞ。健闘を祈る。(小林)



中三生へ

入試直前の過ごし方

●いよいよ受験シーズンの到来だ。入試までの日数を数えて、あせっている人も多いはずだ。確かにあせる気持は分かる。私にも覚えのあることだから。しかし、あせりに流され

て、今なすべきことを見失っては、これまで養ってきた実力を十分に発揮できぬまま終わってしまったことも。



●これまで勉強を続けてきた人は、今が一番学力が充実している時期のはずだ。「最後までガツガツするな」「直前はゆったりとすこせ」という人が多いが、信じてはいけない。テストの直前まで、できるだけのことをする、そして学力の貯金をより確実なものにしておくことこそ、成功の秘訣だ。その考えにたつて勉強を進めれば、残された期間が、これまでの何倍もの濃さで過ごせるはずだ。

●①これまでにやってきたものの総復習をし。入試問題は、社会などの時事問題をのぞけば、ほとんどが既習の知識を組み合わせたものである。だから、一度身につけた(しかし、まだ定着しきつてはいない)知識を更に印象の強いものにしておくことが絶対必要である。その作業も終わらぬまま、「気分を変えよう」とか「これをみんなやっていいるから」と、新しいものに手をつけることは、してはいけない。使ってきたもので、チェックのしであるものをくり返しやること。また、模試で落とした問題も忘れずにやること。

●②過去の問題を時間を計って解け。自分が受験する学校の問題は、必ずやっておくべきだ。学校によっては、出題の仕方、その内容に大きな特色があつて、それを知った上で備えれば、大幅な得点アップが可能な場合もある。同じ成績の二人がいて、対策をした場合としない場合で、十点位の差がつくことは珍しくない。また、時間配分の練習も過去の問題を使ってやっておかないと痛い目にあうぞ。

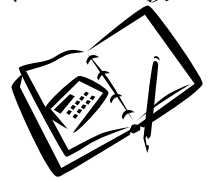
それから、出来なかつた所は、ちゃんと調べてやり直しておく。

●③英数は毎日やれ。不得意な教科を残すな。必要な科目のバランスを考えて勉強しろ。

★④朝型にきりかえろ。こう書くと、朝四時ごろ起きて勉強する人がいるし、そう教える人も又、いるらしいが、とんでもない。朝九時から始まるテストの時に頭が働くようにすればいいことで、六時起床で十分。そして、二十分程度何か問題を解くと、頭がさえてくるはずだ。

★⑤普段と変わった生活をするな。テスト前日も当日も、普段と同じように過ごすこと。とにかく最後は気迫だ。なんとしても入るといふ気迫をもって、合格をつかんで欲しい。

(小林)



「自ら聞く姿勢」

自分が困っているとき、他者に助言を求めることがあります。確かに自分で考えることもなく安易に他者に頼ることはよくありません。しかし自分だけで考えていて堂々巡りをしたり解決策が思いつかない場合もあります。その場合素直に他者に聞いてみることは大切なことです。



ところが私自身振り返ってみると、ちょっとした簡単な疑問点はすぐに誰かに尋ねますが、結構大事なことを人に聞かないこともあつたのだということが最近分かってきました。ではなぜ人に聞かないのか?問題意識が低い、本当に困っていないのか?問題意識が低い、本当に困っていないのか?物事を安易に考えている、真剣に物事に取り組んでいない等々が考えられます。本当に切羽つまって真剣に

悩んでどうしようもない状態の時は、人に相談するものです。

ただし、自分で問題意識を持ち悩み工夫しているが、うまくいったりいかなかったり...ある程度うまくいっているときは忘れてしまひ、またうまくいかなかったとき悩む...そのくり返し。確かに試行錯誤しながら自分なりに解決策をつくりだしていくこともあります。しかし、本人だけ気づいていないのですがはたからみると全体的にあまりうまくいっていない状況が長期にわたっているなどみえることがあります。当人が本気じゃないと言われればそれまでですが、自分自身に照らし合わせると、そのような状況の時、人に相談することまで思い至らない、そのような選択肢が頭の中から消えているのです。



受験生の皆さんもこのような状況というのがあるのではないのでしょうか?本番の入試まで本心に時間が切迫してきました。個人によって差がありますが、多かれ少なかれ悩みや不安はあるものです。それを自分なりに解決していくのも大事なことです。ただし、今まではあまり人に相談せずに自分なりにやってきた人は、うまくいっていないことがあつたら今回少し勇気を出して我々講師に相談してみること一つの手です。

生徒一人一人の問題点を的確に把握・分析しその生徒に応じた解決策を考え、そして本人に伝えること...これは我々講師の義務です。しかし我々講師にも生徒本人がどんなことで悩んでいるのか正直分らないこともあるのです。生徒が講師のところ相談してきて初めてわかることもありますし、



創学舎の本

★受験生は読め!合格のヒケツがココにある
●勉強法・精神面のケアなどについて、創学舎講師陣が書いたものです。
●非売品です。希望者には無料で差し上げます。
★愛の壁 — お父さんお母さんあなたの愛は子供に届いていますか (著者 小林 憲右)
●創学舎ニュースの編集責任者 小林が二十一年間書き続けてきた記事の中から抜粋・加筆したものです。
●浅野書店・ブックス鈴木・新星堂他全国書店で発売中。
☆卒業や転校等で創学舎を離れ方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。在籍していた教室までご連絡下さい。

☆卒業や転校等で創学舎を離れ方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。在籍していた教室までご連絡下さい。